

「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」に基づく取り組み

老年医学会の活動指針として2018年「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」を策定。認知症は重点項目「認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進」として取り上げられた。2021年5か年計画に関して自己評価を実施。認知症の取り組みについては順調な進捗とした。2024年「第二次健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画」を開始。認知症は引き続き重点項目とした。

III 認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進

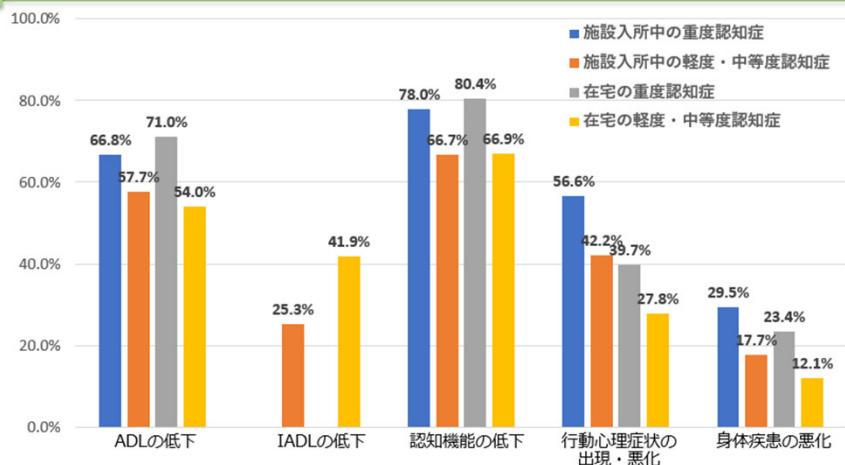
- 1) 認知症およびMCIの早期発見ならびにリスク軽減・予防に関する取り組みの社会実装
 - －多因子介入（J-MINT研究等）の社会実装、保健事業・介護予防との連携、MCIハンドブックの内容を実地（保健師、市民）に導入
 - －Cognitive reserve（認知予備能）に関する研究を推進し、認知症予防に応用
- 2) 認知症に対する社会全体の理解を深め、尊厳ある暮らしを可能にする社会環境の整備
 - －認知症基本法に基づく共生社会の実現を目指した国、地方自治体における仕組みづくりへの協力
 - －診断後支援、アルツハイマー病治療薬導入後の認知症診療のあり方について検討
 - －あいちオレンジタウン、高島平ここからステーション、秋田モデルなどの認知症共生モデル地域を全国的に展開（厚生労働省老健局地域認知症対策室と連携して、各自治体と協調）
- 3) ICT・IoT・ロボット技術・AIなどの先端技術を用いた認知症への支援の推進
 - －Gerontechnologyの技術開発と臨床応用：表情認識、AI画像診断、チャットボットなど

取り組み紹介

「新型コロナウイルス感染症による 高齢者医療・介護への影響調査」 報告書公表

老年医学会では多くの関係団体の協力を頂き、コロナ禍における認知症の人への影響を評価する実態調査をこれまで3度にわたり実施してきました。報告書を老年医学会ホームページ上で公開しました。また、第4回調査を実施中です。

日常生活の変化や活動制限によって認知症の人の状態に精神面、身体面を含めた多岐にわたる悪影響が生じていた。



認知症施策推進基本計画に対する意見 提出

認知症基本計画の検討段階で、認知症施策推進関係者会議に対して意見提出を行い、さらに素案に対してパブリック・コメントの募集に対しても意見提出を行いました。

認知症への取組として以下を提案しました。

①認知症の複雑性に基づくアプローチ

予防やニーズへの支援にあたっては、認知症を様々な障害や問題が複雑に相互作用する複雑系として捉え、包括的かつ多職種協働で行っていく

②認知症とフレイル

フレイルは介護・認知症予防という観点だけでなく、認知症の人の入院の危険性を減らす、進行抑制という観点においても重要であり、フレイル対策を進めていく

③先端技術を活用した認知症支援の推進

高齢者医療・介護に伴う多くの課題解決には先端技術が必要